

施策コード 10101

新・相模原市総合計画での位置づけ

基本目標	NO	誰もが安全でいきいきと暮らせる安心・福祉都市	
政策の基本方向	NO 1	あたたかい地域福祉社会をつくれます	施策所管局 健康福祉局
施策名	NO 1	地域福祉の推進	局・区長名 篠崎 正義

施策の基本情報です。施策所管局及び局長名は、シート記入時点のものです。

施策の目的・概要

めざす姿	住民がともに地域で支えあっている。
取り組みの方向	1 地域福祉活動の推進 福祉への理解と意識の向上を図るとともに、地域の課題解決に向けて、参加と連携により地域全体で支えあう福祉コミュニティづくりを進めます。 2 バリアフリーによる福祉のまちづくりの推進 誰もが公共施設・公共交通を快適に利用できるよう、道路・公園や駅などのバリアフリー化を進めることにより、福祉のまちづくりの推進に取り組みます。

施策の目的として「めざす姿」を設定しました。また、「めざす姿」を実現するための「取り組みの方向」を記載しています。「取り組みの方向」にかかわる事業については、「施策を構成する主な事務事業」に記載してあります。ただし、現時点では、「取り組みの方向」に掲げられている事業を実施していないため、記載していないものもあります。

基本計画で定めている指標と各年度の目標及び実績

【指標1】 中間(H26):38.3%、最終(H31):45.8%

指標と説明	【指標1】地域で、住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合 住民が福祉活動で互いに支えあっているかを見る指標【単位：％】					結果の分析	
目標設定の考え方	地域の人たちの支えあい活動の場の一つであるサロンの設置増加数の割合を参考に、目標として設定しました。					実績値は昨年より上昇したものの、目標値をやや下回った。引き続き、福祉コミュニティ形成事業の推進等、地域で支え合う仕組みづくりを進める必要がある。	
	基準値(H20年度)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	評価	B
目標値(a)	29.2	32.2	33.7	35.3	36.8		
実績値(b)		28.7	31.7				
達成率(a/b) %		89.0	94.0				

施策の目的として設定した、施策の「めざす姿」の達成度を具体的に測るため、成果指標を設定しています。指標の測定年度と評価年度が異なる場合は、測定年度をカッコ書きで記載しています。

【指標2】

指標と説明						結果の分析	
目標設定の考え方							
	基準値(H20年)	H22	H23	H24	H25	評価	
目標値(a)							
実績値(b)							
達成率(a/b) %							

【指標3】

指標と説明						結果の分析	
目標設定の考え方							
	基準値(H20年度)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	評価	
目標値(a)							
実績値(b)							
達成率(a/b) %							

【指標4】

指標と説明						結果の分析	
目標設定の考え方							
	基準値(H20年度)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	評価	
目標値(a)							
実績値(b)							
達成率(a/b) %							

A : 年度別目標を(上回って)達成  
D : 年度別の目標の値が60%未満

B : 年度別の目標の値を80%以上達成  
: 今年度は成果指標の測定ができないもの

C : 年度別の目標の値を60%以上達成

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	総事業費の増減分析
事業費	570,670	527,293	531,068			増額要因は、福祉コミュニティ形成事業の取組地区が増加したことに伴う事業費の増であり、また、減額要因としては、民生委員の一斉改選事務の終了に伴う人件費の減である。
人件費	38,740	26,862	23,062			
総事業費	609,410	554,155	554,130			
施策に対する市民1人あたりコスト [単位:円]	856	772	770	0	0	

施策推進に要した事業費及び人件費、市民一人あたりのコストを記載しています。

職員1人あたりの人件費は、H21年度745万円、H22年度726万円、H23年度717万円として計算(人口は、毎年度10月1日現在の人口統計数値を使用)

施策を構成する主な事業(事務事業)の取組結果

事業の概要	平成23年度		平成24年度 指標・目標
	指標・目標	実績・評価等	
1 地域福祉活動推進事業(市民福祉の集い開催費) 【地域福祉課】 市民の連携と参加による「心のふれあう福祉の輪づくり」を推進するため、福祉月間事業の一つとして「市民福祉の集い」を開催する。	来場者アンケート結果「満足」、「まあ満足」と回答した人の割合:75% ('満足'・'まあ満足'と回答/アンケート提出総数×100)	実績 67% 評価 満足度は、講師の人選で評価される部分も多いが、福祉思想の普及啓発を進める上では、継続して実施し福祉を考える機会を提供していくことは必要である。	75%
2 地域福祉活動推進事業(社会福祉功労者、福祉作文等入賞者表彰費) 【地域福祉課】 社会福祉の増進に功労のあった者・団体に対し、表彰又は感謝の意を表してその功をたたえ、労をねぎらい、福祉作文・ポスターの入賞者にも賞状を贈り、もって心のかよいあう明るいまちづくりを進める。	福祉ポスター・福祉作文参加者数:2,000人	実績 1,513人 評価 特に作文(小学生の部)の応募が少なく、達成できなかった。募集種別(作文)の変更を含め、募集方法を工夫する。	福祉ポスター・標語及び作文参加者数:2,000人
3 地域福祉活動推進事業(社会福祉協議会運営助成金) 【地域福祉課】 地域福祉活動を充実するため、社会福祉法において地域福祉の推進を図ることを目的とする団体と位置付けられている相模原市社会福祉協議会に運営費等を助成する。	H24年度末の市派遣職員の引き揚げに向け、「強化・発展計画」の着実な推進を促す。また、社会福祉協議会の活動内容と成果を市民にわかりやすく発信するため、広報紙、ホームページ等の内容を充実する。	実績 強化・発展計画に基づき部会制度の見直し、経営基盤強化委員会の設置を行った。また、新たにマスコットキャラクターを公募、決定し、ホームページや広報紙等で活用し、市民に親しみやすい形で広報活動を行った。 評価 新たにマスコットキャラクターを活用したブログを開始するなど、情報発信の機会の充実に努めている。	市派遣職員(2人)の引き揚げを完了する。
4 地域福祉活動推進事業(福祉コミュニティ形成事業) 【地域福祉課】 福祉コミュニティの形成を支援するため、社会福祉基金の運用収益等による助成を行う。	福祉コミュニティ形成事業の取組を開始している地区数:12地区	実績 12地区で実施 評価 予定どおり進んでおり、取組地区が増加している。	15地区で実施
5 地域福祉活動推進事業(地域福祉推進経費) 【地域福祉課】 相模原市地域福祉計画に基づき、身近な地域福祉を一層進めるため、地域での福祉活動の支援などを実施するとともに、地域福祉計画推進会議において地域福祉計画の実施状況の把握や意見聴取などを行う。	福祉のまちづくり推進協議会、新規加入数:1団体以上	実績 1団体 評価 目標は達成したが、更に加入促進に努める。	1団体以上
6 民生(児童)委員活動推進事業 【地域福祉課】 社会福祉の増進に努めるため、民生委員・児童委員の活動を推進する。	欠員の補充を図る。	実績 新たな欠員補充:22名 年度中退任者:17名 差引欠員数:13名(平成24年3月末現在) 評価 欠員の補充を図った。(平成23年3月末の欠員数から5人削減。)	欠員の補充を図るとともに、民生委員・児童委員の活動しやすい環境づくりを図るため、民生委員・児童委員の活動のあり方や方向性について検討を進める。
7 相模大野駅北口広場エレベーター設置事業 【市道整備課】 高齢者、障害者等の移動円滑化の向上を図るため、エレベーターを設置し、駅前広場の交通環境の改善を図る。	設置に向けた関係機関協議	実績 関係機関(小田急電鉄)と、エレベーター設置のスケジュールについて協議 評価 予定どおり実施	設置に向けた関係機関協議
8 ノンステップバス導入促進事業 【交通政策課】 車椅子利用者等の利便性を向上するノンステップバスを民間事業者が導入する際に費用の一部を補助する。	新規導入 1台	実績 1台 評価 目標どおり実施	新規導入 1台

施策を構成する主な事務事業の概要と指標・目標及び実績評価です。

施策を構成する主な事業(事務事業)の決算額

番号	事業名[所管課]	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
1	地域福祉活動推進事業(市民福祉の集い開催費) 【地域福祉課】	296	218	296		
2	地域福祉活動推進事業(社会福祉功労者、福祉作文等入賞者表彰費) 【地域福祉課】	709	520	620		
3	地域福祉活動推進事業(社会福祉協議会運営助成金) 【地域福祉課】	382,729	414,690	414,539		
4	地域福祉活動推進事業(福祉コミュニティ形成事業) 【地域福祉課】	4,535	5,874	7,595		
5	地域福祉活動推進事業(地域福祉推進経費) 【地域福祉課】	6,665	3,031	3,203		
6	民生(児童)委員活動推進事業 【地域福祉課】	102,826	102,960	102,915		
7	相模大野駅北口広場エレベーター設置事業 【市道整備課】	72,910	0	0		
8	ノンステップバス導入促進事業 【交通政策課】	3,000	2,660	1,900		

施策を構成する主な事業の決算額です。

総合分析及び市の自己評価(1次評価)

【現状・課題認識】

福祉コミュニティ形成事業の実施地区数やサロンの数は着実に増加しており、地域で、住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合についても、目標値は達成できなかったものの、基準年度及び平成22年度と比較して上昇している。

地域で住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合を高めるためには、住民一人ひとりの意識の醸成が必要であるため、長期的な取組を推進していく必要がある。

民生(児童)委員において、業務の多忙感や負担感が増加しており、民生(児童)委員の担い手が不足する状況のため、地域から候補者を選出することが困難になってきている。

相模大野駅北口広場エレベーター設置事業については、高齢者や障害者等の移動の円滑化を目的に駅前広場の交通環境の改善を図っているが、バスの乗降場や商業施設等に隣接しているため、交通事業者等の関係機関と入念な事前協議を要する。

【平成23年度の取組についての総合評価】

福祉コミュニティ形成事業については、平成23年度に新たに3地区で取組が開始され、合計で12地区となり目標を達成した。

市社会福祉協議会の活動内容や成果については、市社協ホームページにおいて、予算書、事業計画書、決算書、事業報告書を公表するとともに、「パンフレット・印刷物コーナー」や「動画コーナー」を設け、市社会福祉協議会の活動内容の市民への周知に努めた。

民生(児童)委員活動については、本人の病気療養や家族の介護などを理由に新たな退任者が生じてしまう中、欠員補充に努めることにより、前年度末の欠員数から5人の削減を図ることができた。

相模大野駅北口広場エレベーター設置事業については、土地所有者である小田急電鉄株式会社と、エレベーター設置に向けたスケジュール調整を行った。

施策を構成する個々の事務事業については、目標を達成できなかった事業もあるが、福祉コミュニティ形成事業の取組地区の増加や、民生(児童)委員の欠員率の改善など一定の成果も認められる。また、本施策の指標としている「住民がともに支えあっていると感じる市民の割合」が増加してきていることから1次評価はBとした。

【今後の具体的な改善策】

あたたかい地域福祉社会の実現に向け、市民が身近な場所で気軽に福祉活動に参加できるよう、福祉コミュニティ形成事業の支援策の見直し等を行い、福祉コミュニティ形成事業の一層の推進を図る。

福祉作文の小学生の募集が減少していることから、平成24年度については、小学生の部の募集において「福祉作文」を「福祉標語」へ変更(試行)し、「福祉標語」募集による成果、課題等を整理した中で、平成25年度以降の取組を決定していくこととする。なお、中学生の部については、例年どおり、「ポスター」及び「作文」の募集を継続するが、作文の応募は少ない状況であり、継続が難しい応募数等となった場合は、対応を検討する。

地域福祉を推進する団体である市社会福祉協議会の運営が安定的、継続的に行われるよう、経営基盤の強化を促す。

民生(児童)委員のなり手を増やすために、民生(児童)委員の活動しやすい環境づくりを図る必要があることから、民生(児童)委員の活動の負担軽減等について検討を進める。

相模大野駅北口広場エレベーター設置事業については、バスの乗降場での施工となるため、関係事業者を含めたスケジュール調整の準備を予定している。

1次評価  
B

施策を実施した評価として総合的に分析し、市の自己評価を1次評価として記載しています。



2次評価(総合計画審議会意見)

【施策推進に対する意見】

- ・民生委員、児童委員活動推進事業について、厳しい状況の中でも欠員数が少なくなったことは、非常に評価できる。
- ・福祉コミュニティ形成事業の中で「会議等を通して課題を発見していく」ということは理解するが、参加しない人、関心を示さない人にどれくらい影響力を及ぼすことができるのかも課題である。
- ・コミュニティ形成は、本来的に福祉の分野だけではなく、部局を超えた連携により、福祉への理解と意識の醸成を進めていくことが重要である。

【改善すべき点】

- ・福祉コミュニティ形成事業について、「予定どおり進んでいる」とのことだが、「事業を実施している地区が増えれば地域福祉が進む」ということは、やや短絡的な考え方である。むしろ、「どのような活動が進んでいるのか」について、施策を構成する主な事業の取組結果の実績・評価欄に記載されたい。
- ・民生委員、児童委員活動推進事業の取組結果において、活動しやすい環境づくりに関して、方向性を検討するということを記載しているが、具体的な目標を記載されたい。

- ・福祉においても財政的負担の観点から、市民の自助意識を高めて、連携していく方向で施策を組み立ててほしい。
- ・校内での総合学習も含め、学校教育や社会教育と連携し、意識の向上に向けた取組を実施されたい。
- ・地域福祉の推進を図ることのできるサブ指標を設定されたい。

2次評価  
B

1次評価の妥当性を検証し、総合計画審議会が実施した2次評価を記載していません。



A: 施策の目標達成に向けて十分に事業の効果が現れている B: 施策の目標達成に向けて一部の事業の取組に改善が必要 C: 施策の目標達成に向けて事業の取組に大幅な改善が必要

【参考1】基本計画で定めている成果指標を補完する指標(サブ指標)

サブ指標の設定基準(次のア、イ又はウに該当する場合は、原則、サブ指標を設定することとする。)

- ア 総合計画審議会から成果指標における目標値が達成しやすいとの指摘があった成果指標
- イ 測定結果が出ていない成果指標
- ウ 「取り組みの方向」を実現するに当たっての成果指標がないもの

{
上記基準に該当する(ア イ ウ)  
上記基準に該当しない

成果指標を補完する指標として、サブ指標を設定しています。サブ指標の設定基準に該当する場合は、原則設定することとし、設定が困難である場合は、設定できない理由を明記することとしています。

【サブ指標1】

中間(H26):100、最終(H31):100

指標と説明		結果の分析				
指標と説明	バス停留所のバリアフリー化対応率 バス中扉からの車椅子乗車を行うために整備が必要なバス停の整備状況[単位: %]	バスの環境整備は予定通り進捗しており、車椅子利用者の利便性の向上が図られた。				
目標設定の考え方	環境整備の必要なバス停(245箇所)について順次整備を進めることとして、目標を設置しました。					
	基準値(H21年度)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	
目標値(a)	40.4	53.1	77.6	100	100	
実績値(b)		53.1	77.6			
達成率(a/b) %		100.0	100.0			評価 A

A: 年度別目標を(上回って)達成  
 B: 年度別の目標の値を80%以上達成  
 C: 年度別の目標の値を60%以上達成  
 D: 年度別の目標の値が60%未満  
 : 今年度は成果指標の測定ができないもの

【サブ指標を設定できない理由】(上記基準に該当するにもかかわらず、設定できない場合のみ記入)

【参考2】部門別計画の審議会や区民会議からの意見・これに対する市の対応

総合計画審議会や市民への更なる情報提供の視点から、個別の施策を推進する上で部門別計画の審議会や区民会議から意見がある場合は、これに対する市の対応も含めて記入することとしています。

【参考3】他の部局との庁内横断的な取り組み

庁内の関係課長で構成する地域福祉計画連絡会議や社会福祉協議会との定例会議の開催、また、平成23年度からは新たに地区社会福祉協議会の代表者会議に出席するなどして、他の部局や関係団体と連携を図っている。

施策を推進する上で、他の部局との町内横断的な取り組みを行った場合は、具体的な取り組みを記入することとしています。

「施策」、「めざす姿」、「取り組みの方向」、「成果指標」及び「事務事業」の体系

施策名	めざす姿	取り組みの方向	成果指標	施策を構成する主な事業
地域福祉の推進	住民がともに地域で支えあっている。	1 地域福祉活動の推進	【指標1】地域で、住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合	地域福祉活動推進事業(社会福祉協議会運営助成金) 地域福祉活動推進事業(福祉コミュニティ形成事業) 民生(児童)委員活動推進事業
		2 バリアフリーによる福祉のまちづくりの推進	【サブ指標】バス停留所のバリアフリー化対応率	相模大野駅北口広場エレベーター設置事業 ノンステップバス導入促進事業

「めざす姿」、「取り組みの方向」、「成果指標」及び「事務事業」の関連性を明確にするため、体系を図示化しました。